

2022年2月6日作成

Ver.3.0

腹水中に存在する子宮内膜症の増殖・進展に關与する免疫複合体の同定**1、研究の目的と意義**

子宮内膜症は、卵巢から分泌される女性ホルモンであるエストロゲンの影響を受けて発症し増悪すると言われています。子宮内膜症に対する治療法として、低容量ピルやジエノゲストが広くしようされています。ジエノゲストはエストロゲンの作用を抑制するプロゲステロン製剤ですが、子宮内膜症の患者さんの一部にはプロゲステロン製剤に効果がみられない方（プロゲステロン抵抗性）が存在します。一方子宮内膜症は慢性炎症疾患とも言われており、その発症や増悪には腹腔内の免疫機構（免疫複合体）が關与していると報告されています。

本研究では、卵巢子宮内膜症性嚢胞や良性卵巢腫瘍、子宮筋腫などの婦人科良性疾患に対して腹腔鏡手術をした患者さんの子宮内膜症の有無を調べ、子宮内膜症と診断された患者さんと子宮内膜症がない患者さんと比較することで子宮内膜症の特徴を調べます。また、手術の際に採取した腹水を用いて腹水中の免疫複合体を解析します。子宮内膜症の発症・増悪は不明な点が多いため、これらを調べることで子宮内膜症の新たな治療法へつながらる知見が得られる可能性があります。

2、対象となる患者さん

2011年1月1日から2021年12月31日までに長崎大学病院産科婦人科で卵巢子宮内膜症性嚢胞や良性卵巢腫瘍、子宮筋腫などの婦人科良性疾患に対して腹腔鏡手術がおこなわれた患者さんが対象です。

3、研究の方法

上記の期間での手術時に採取し当科で保管された腹水の一部を使用します。対象となる腹水を解析し、子宮内膜症がない患者さんの腹水と比較することで、子宮内膜症に特徴的な物質を同定します。また、対象となる患者さんの情報をカルテから収集し、子宮内膜症の特徴を解析します。

4、研究に用いる試料・情報

情報；手術時の年齢、妊娠分娩歴、不妊症の有無、月経困難症の詳細、月経困難症に対する治療・薬剤投与歴、手術時の子宮内膜症の所見、術後の子宮内膜症の病理診断、術後経過

試料；手術時に採取した腹水

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2025年3月31日

6、外部への試料・情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 産科婦人科 三浦清徳

《研究担当者》

長崎大学病院 産科婦人科 北島道夫

長崎大学病院 産科婦人科 松村麻子

詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

8.お問い合わせ先

長崎大学病院 産科婦人科 担当者名 松村麻子, 北島道夫

〒852-8501 長崎市坂本1丁目7番1号

電話：095（819）7363 FAX 095（819）7365

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）